

教科	発行者の番号・略称 教科書名	事 由
生活	2・東書 ときどきわくわく 新編 あたらしい せいかつ 上 あしたへジャンプ 新編 新しい生活 下	<ul style="list-style-type: none"> ○「身近な人々、社会及び自然を自分との関わりでどのように捉え、どのように考え、表現し気付きの質を高めていくか」という生活科固有の見方・考え方が丁寧に取り扱われている。例えば、上巻「はなをさかせよう」において、聞く・においをかぐなどの観察の方法や、表現方法など発達段階に応じてわかりやすく取り扱われている。 ○低学年の児童の発達に配慮した取り組みやすい活動が適切に取り上げられている。 ○『やってみよう』では、気付いたことを基に「見付ける」「比べる」「たとえる」など学習活動が示され、気付きの質が高まるように配慮されている。 ○『やくそく』や『かつどうべんりちょう』など、学習活動に即した習慣や技能を身に付けられる資料が設けられている。 ○単元導入は見開きのダイナミックな写真や絵で構成し、児童の興味・関心を引き出し、児童の主体的な活動が始まるような工夫がみられる。 ○「学びをふかめる」というコーナーで深い学びが実現されている児童の姿を示したり、学びのプロセスを紙面下段に掲載したりして、児童が活動をイメージできるような工夫が見られる。 ○季節の流れを軸に、時系列で配列し、四季の変化を意識しながら生活や学習ができる構成になっている。 ○季節単元では、児童の気付きを促せるよう、自然だけでなく公共施設や町の様子を定点から描写しているという特色がある。 ○授業ですぐに使える資料が豊富に掲載されていて教員が児童と直接向き合う時間を増やすことができるよう配慮されるとともに、QRコンテンツなどの資料が充実している。 ○活動や体験を通して得た気付きを友達どうしで伝え合う姿や多様な他者と関わる場面などが、写真や挿絵を用いて具体的に例示されている。 ○臨場感があふれる写真で、子どもの活動意欲が引き出されるように工夫されている。 ○写真等の情報量が絞られており、低学年の発達を考慮した掲載となっている。 ○上巻のはじめはひらがなのみ、夏休み以降からカタカナが使用され、下巻では、第2学年までの配当漢字にすべてふりがなをつけている。